

## JA施肥アドバイザー、15名誕生 ～土壌・肥料の基礎習得を認定～

施肥設計や土壌診断など、農家の土づくりの相談に応じる「JA施肥アドバイザー」の認定証書授与式が、3月23日、JAビルかながわ（平塚市）で開催された。県内JAで営農指導などを担当する職員15名が「JA施肥アドバイザー」に認定された。

全農かながわの関田真司農産部長は、「現在JAグループを上げて営農指導力の強化に取り組んでおり、今回の講習もその一環となる。農家は常に新しい事にチャレンジしており、我々JAグループも新しい取り組みで支援していきたい。習得した専門知識を活用して、農家の土作りに関する相談に分かりやすい言葉でアドバイスを行い、農産物の品質向上や収量拡大の一助へつなげて頂きたい」と激励した。

合格者からは「営農指導で圃場に行くと、作物より先に土壌を見るようになった」「講習内容は難しかったが、組合員に説明する時の根拠となる知識を習得できて良かった」「JA内でTAC活動に活かし、組合員に知識を還元していきたい」といった感想が聞かれた。

土壌・肥料に関する基礎知識を習得した「JA施肥アドバイザー」合格者は、更に専門的な土壌・肥料に関する知識と栽培知識を習得し、生産者と共に課題に取り組める事を目標に「JA施肥マイスター」を目指す。28年度は全6日間の講習で、実習圃場での土壌採取と物理診断、土壌改良、分析結果に基づく処方箋作成や施肥設計、作物のリアルタイム診断と栽培中の施肥管理などを学び、認証試験で合否を判定する。全農かながわ生産資材課では「最終的には、物理性・化学性に生物性を加えた総合的な土壌診断を行える事が目標。JA施肥マイスター認証取得を一緒に目指しましょう」と呼びかけた。

「JA施肥マイスター」認証取得後は、営農指導技術に関する情報や課題を共有し、技術の維持向上を図るため、「研究会」を立ち上げ、「JA施肥マイスター」のネットワーク化を図りたい考え。将来的には「JA施肥マイスター」が「JA施肥アドバイザー」育成まで行えるよう、研修等で支援していく。



JA施肥アドバイザー認定証書授与式に参加した、合格者たち